

## 南ア月報

(2014年5月)

在南アフリカ日本国大使館

### 主な出来事

#### 【内政】

- 7日、総選挙の実施。
- 10日、総選挙の結果発表。
- 21日、国民議会(下院)議長・副議長の選出、下院におけるズマ大統領の選出、各州新首相の選出。
- 22日、全国州評議会(上院)議長・副議長の選出
- 24日、プレトリアにおいて、大統領就任式典が挙行。ズマ大統領によるスピーチ。
- 25日、新閣僚名簿の発表。
- 26日、新閣僚が宣誓・就任。

#### 【外交】

- 2日、南ア・パレスチナ二国間協議の開催。
- 5日、南ア政府、総選挙のための国際選挙監視団を歓迎する声明を発表。
- 14日、南ア・ポーランド・ディスカッション・フォーラムの開催。

#### 【経済】

- 2014年第1四半期の南アの経済成長率、0.6%減。
- 4月の消費者物価指数(CPI)、6.1%の上昇でインフレ目標上限超す。
- 大手信用格付機関は、南アソブリン債の格上げを望む場合、新内閣は、経済成長と雇用創出を促進する政策を実施しなければ行けないと警告した。

### 1 内政

#### ●総選挙の実施

7日午前7時より、全国約2万2千ヶ所の投票所で投票開始。午後9時の投票締め切り後開票作業が行われた。選挙前に住民の抗議活動が見られた地域を含め、状況は概ね平穏に推移した。

#### ●総選挙の結果発表。

10日、トラクラ独立選挙委員会委員長は、プレトリアの同委員会中央集計センターにおいて今次総選挙の最終結果を発表した。過去最多の29政党が参加した国民議会(下院)議員選挙の結果は以下のとおり。(投票率:73.43%)

政党名	獲得議席	得票率	(2009年選挙での獲得議席/得票率)
アフリカ民族会議(ANC)	249議席	62.15%	(264議席/65.90%)
民主連合(DA)	89議席	22.23%	(67議席/16.66%)
経済的解放の闘士(EFF)	25議席	6.35%	(2013年に結成)
インカタ自由党(IFP)	10議席	2.40%	(18議席/4.55%)
国民自由党(NFP)	6議席	1.57%	(2011年に結成)

統一民主運動 (UDM)	4議席	1.00%	(4議席/0.85%)
自由戦線 (VF Plus)	4議席	0.90%	(4議席/0.83%)
国民会議 (COPE)	3議席	0.67%	(30議席/7.42%)
アフリカ・キリスト教民主党 (ACDP)	3議席	0.57%	(3議席/0.81%)
アフリカ独立会議 (AIC)	3議席	0.53%	(前回は州議会選挙のみ参加)
Agang SA	2議席	0.28%	(2013年に結成)
パン・アフリカニスト会議 (PAC)	1議席	0.21%	(1議席/0.27%)
アフリカ人民会議 (APC)	1議席	0.17%	(1議席/0.20%)

●21日、7日に実施された総選挙後初の国民議会(下院)が招集され、各議員の就任宣誓に続き、正副議長の選出が行われ、以下の議員がそれぞれ選出された。

- 1 国民議会議長:バレカ・ムベテ(Ms. Baleka Mbete)
  - (1)与党ANC全国委員長(ANC全国執行委員会 党6役メンバー)。
  - (2)2004年-08年の任期に続く二度目の国民議会議長就任。
- 2 国民議会副議長:レチエサ・ツェノリ(Mr. Lechesa Tsenoli)
  - (1)前協調統治・伝統業務大臣 (2)南ア共産党中央委員会メンバー

●21日午後、正副議長の選出に続き、下院において大統領の選出が行われ、ジェイコブ・ズマ与党ANC総裁が二期目の南ア大統領に選出された。

●21日、各州の新首相(以下参照)の就任宣誓式がそれぞれの州で執り行われた。

- 1 北ケープ州:シルビア・ルーカス(Sylvia Lucas)女性(再任)  
北ケープ州首相代理。元北ケープ州環境大臣。
- 2 東ケープ州:プムロ・マスアレ(Phumulo Masualle)(新任)  
元東ケープ州道路・公共事業大臣。
- 3 北西州:スプラ・マフマペロ(Supra Mahumapelo)(新任)  
元北西州ANC院内総務。
- 4 ムプマランガ州:デービッド・マブーザ(David Mabuza)(再任)
  - (1)1994年以来、ムプマランガ州内で教育大臣、農業大臣、運輸大臣を務めた。
  - (2)元ムプマランガ州ANC議長。ANC全国執行委員会(NEC)メンバー。
- 5 リンポポ州:スタンレー・マサバサ(Stanley Mathabatha)(再任)  
カセル・マターレ前リンポポ州首相の失政を受けて、昨年より現職。
- 6 ハウテン州:デービッド・マクラ(David Makhura)(新任)  
前ハウテン州ANC事務局長(2001年~)。
- 7 自由州:エース・マガシューレ(Ace Magashule)(再任)
  - (1)2009年より現職。(2)元自由州ANC院内総務。
- 8 クワズールー・ナタール州:センゾ・ムチュニユ(Senzo Mchunu)(再任)
  - (1)1999-2009年、クワズールー・ナタール州内各委員会にて委員長職を歴任。
  - (2)元クワズールー・ナタール州教育大臣
- 9 西ケープ州:ヘレン・ジレ(Helen Zille)(女性)(再任)
  - (1)2009年の就任に続き二期目の西ケープ州首相就任。
  - (2)最大野党DA(民主連合)党首。

●22日、7日に実施された総選挙後初の全国州評議会(上院)が招集され、各議員の就任宣誓に続き、正副議長の選出が行われ、以下の議員がそれぞれ選出された。

1 全国州議会議長:タンディ・モディセ(Ms. Thandi Modise)

(1)前北西州首相(2010年~14年)

(2)元ANC副事務局長(2007年~12年)

2 全国州議会副議長:ラセリティ・タウ(Mr. Raseriti Tau)

前全国州議会院内総務・監督制度支援担当(2009年~14年)

●24日、プレトリアにおいて、大統領就任式典が挙行され、ズマ大統領が正式に第二期目の政権に就いた。本式典において、ズマ大統領はスピーチを行い、(1)民主化20周年、(2)革新的(radical)な社会経済変革政策の実施、(3)広範囲の黒人優遇政策(BBEE)の拡大等について演説した。また翌25日には新閣僚名簿が発表された。

## 2 外交

### ●南ア・パレスチナ二国間協議の開催

2日、マシャバナ国際関係・協力大臣は、プレトリアにおいて、マーリキー・パレスチナ自治政府外務庁長官と共催で南ア・パレスチナ二国間協議を開催した。同協議では、南ア・パレスチナ関係、アフリカ・パレスチナ関係、最近の中東情勢及び和平プロセスについて意見が交わされた。両大臣の会合は、国連による、2014年をパレスチナ人民連帯の国際年とする“International Year of Solidarity with the Palestinian People”への南アの支援の一環として行われた。南ア政府はまた、同日朝、市民社会と学界関係者が参加したパレスチナ連帯セミナーをケープタウンで開催し、フランスマン国際関係・協力副大臣が、過去20年のパレスチナへの国際連帯をテーマに南ア・パレスチナ関係について講演を行った。

### ●総選挙のための国際選挙監視団を歓迎する国際関係・協力省の発表

5日、国際関係・協力省は、総選挙のための国際選挙監視団を歓迎する声明を発表した。声明では、SADC、AU、コモンウェルスを始めとする各監視団を歓迎する旨、また駐南ア大使、高等弁務官は独立選挙委員会により、各投票所への見学の権限が与えられている旨述べた。

### ●南ア・ポーランド・ディスカッション・フォーラムの開催

13日、国際関係・協力省及び在南ア・ポーランド大使館は、南ア、ポーランドのシンクタンクと共催で“2030年に向けたポーランドと南ア”をテーマとするディスカッションフォーラムを開催した。2014年は南アの民主化20周年及びポーランドの民主化25周年にあたり、同フォーラムは南ア・ポーランド関係を一層促進させるための相互利益を反映して開催された。同フォーラムでは、南ア・ポーランド関係の今後や、EUにおけるポーランド、ポーランドの東方政策、南アの国家開発計画ビジョン2030等のテーマについて、講演が行われた。

## 3. 経済

### <経済指標>

#### ●成長

2014年第1四半期の南アの経済成長率は、主に長引くプラチナ鉱山の労働ストライキの影による鉱業部門の不振を受け、0.6%減(対前期比、年率・季節調整済)を記録した。鉱業部門は24.7%急落し、1967年第2四半期以来50年ぶりの落ち込みとなった。鉱業部門の影響を受けて、第1四半期の製造業の生産も4.4%減となった。エコノミストはプラチナ鉱山の労働ストライキ

が18週以上継続しており、終息する見通しが一向にない現状から、南ア経済が景気後退に突入することを懸念している。

### ●貿易収支

長引くプラチナ鉱山でのストライキは世界の需要の拡大から南アが裨益することを妨げている。3月の南アの貿易収支は、114億ランドの赤字を記録した。主にプラチナ鉱山でのストライキの影響により、輸出が伸びず、輸入超過となった。輸出は3%減少、輸入は11.6%増加した。

### ●雇用

南ア統計局の労働力調査によると、2014年第1四半期の失業率は、昨年第4四半期の24.1%から増加し、25.2%となった。失業率は、季節雇用の期間の終了により、多くの人々が新規雇用の機会を探す必要が出たため、増加したと考えられる。第1四半期には、約12万2千人の雇用が失われた。特に、運輸、社会サービス、貿易などのセクターにおいて雇用機会が失われた。一方、製造業、金融業、公共事業などのセクターでは、雇用創出が進んだ。職探しをする失業者の数は増加しており、約510万人となっている。

### ●インフレ

南ア統計局によると、消費者物価指数(CPI)は4月、6.1%の上昇となり、南ア準備銀行の定めるインフレ目標範囲の3~6%を上回った。市場の予想は6%の上昇であった。インフレの主な要因は、食料品・ノンアルコール飲料の指標が対前期比で1.3%上昇した点にあると考えられている。食料・ノンアルコール飲料及び燃料価格を除く総合インフレ率は、5.5%であった。一方、4月の生産者物価指数(PPI)の上昇率は、8.8%と市場の予想の8.4%を上回る結果となった。しかし、消費者の需要の冷え込みや工業製品のバイアスがかかる南アのコンテキストでは、PPIが上昇したからといって、必ずしもPPIと同程度のCPIの上昇が発生するとはいえない。CPIは緩やかに上昇し、今年度第4四半期には6.5%のピークに達する見通しである。

### <出来事>

#### ●大手信用格付機関による警告

大手信用格付機関のS&P、ムーディーズ及びフィッチは、南ア国債の格上げを望む場合、新内閣は、経済成長と雇用創出を促進する政策を実施しなければ行けないと警告した。ムーディーズとS&Pは、南アの国債を2012年に格下げし、フィッチも2013年に格下げした。これらの格付け機関は、声をそろえて、労働ストライキ、成長の低迷、経常赤字及び財政赤字の拡大を格下げ理由としている。

#### ●石油及びガスへの投資の必要性

スタンダード銀行の石油・ガス専門家は、南アは石油及びガス採掘への投資を促進する必要がある、さもなければ資源から利益を引き出すことが困難になるであろうと述べた。南アはカルー地域にシェールガス採掘の可能性がある。シャバング前鉱物資源大臣は、鉱物・石油資源開発改正法案が石油及びガスの採掘にとって不適切な内容であるとの法律専門家からの指摘を受け、ビジネス界などから批判を受けた。

#### ●プラチナ産業における労働ストライキ

JPモルガン・カゼノヴァ社は、南アのプラチナ生産者が安価な労働モデルを改革しない限り、産業界ストライキは続き、同産業は崩壊の一途をたどるであろうと警告した。16週間以上続くストライキに世界3大プラチナ会社が解決策を見出せていない現状の中、プラチナ産業の詳細に関する

同社の報告書が発行された。大手プラチナ会社と労組AMCUとの間で、賃金を月12,500ランドの労組側の要求に関し、交渉が妥結困難となっている。

#### 4. 警備・治安

##### ●邦人被害について

2013年1月から今年5月までの間、日本大使館では36件の邦人被害を確認している。このうち15件は路上強盗や侵入窃盗等の凶悪犯罪によるものであり、けん銃等の凶器を使用した事例も報告されている。また、置引きや車上ねらい、スキミング等の被害も多数報告されており、このようなStreet Crimeは近年増加傾向にある犯罪の一つであることから、今後、十分な対策を講じる必要がある。

##### ●強盗事案の発生について

先月中旬頃、プレトリア市内(大使館事務所及び館員住居直近)でけん銃使用による強盗事件が立て続けに2件発生した。いずれの事件も、プレトリア市内の中では比較的治安が良いとされている高級住宅街において発生している。当該強盗事件の概要は以下のとおり。

###### ① 車両強盗事件

- ・ 発生日時:5月17日(土)午後8時50分頃
- ・ 発生場所:Waterkloof Ridge, Pretoria
- ・ 概要:家人が車両で自宅ゲート前に到着した際に、同所直近に停車中の車両に乗車していた男3~4人組(被疑者)から襲撃を受け、車両を強奪されたもの。被疑者等は襲撃した際にけん銃を5発発砲した。

###### ② 侵入強盗事件

- ・ 発生日時:5月20日(火)午後2時00分頃
- ・ 発生場所:Groenkloof, Pretoria
- ・ 概要:けん銃を所持した男4人組(被疑者)が、屋外で作業中の使用人及び家人に対し、けん銃を突き付け威嚇した後、財布、腕時計等を奪って逃走(車両利用)したもの。なお、逃走する際、パトロール中の警備員に遭遇し、被疑者はけん銃を3発威嚇発砲した。

(了)